

第3回就職氷河期世代支援の推進に向けた全国プラットフォーム 提出資料

一般社団法人ひきこもりUX会議
代表理事 林 恭子

1. 令和2年度厚生労働省社会福祉推進事業

「ひきこもり当事者やその家族と支援領域のプラットフォームJunction」

<開催地>

- ・東京都東久留米市
- ・群馬県安中市
- ・大阪府阪南市
- ・香川県高松市、多度津町、まんのう町

<内容>

- ・連絡委員会会議(※資料1参照)
- ・支援者向け研修会
- ・当事者向けプレ交流会
- ・当事者、家族、支援者向けイベント(※資料2参照)
- ・地域資源ブックマーク作成(※資料3参照)

2. アウトリーチ

「アウトリーチ支援のより強力な推進」に危惧を抱いています。

アウトリーチを否定するものではありませんが、アウトリーチは暴力的支援団体とも親和性が高く、当事者にとってはこころの中に土足で踏み込まれるような恐怖を感じる支援でもあります。成果を拙速に求めず、アウトリーチの暴力性についても認識し、あくまでも「当事者本人からの要望があった場合にのみ」丁寧時間をかけて行ってください。

3. 当事者活動への支援

<当事者活動について>

近年、当事者メディアの発刊、体験談などの講演、イベント主催、居場所作り、交流会の開催等に取り組む当事者が増加しており、全国で当事者活動がさかんになってきています。こうした当事者活動は、当事者からの信頼も得やすく、ひきこもり支援施策には有用です。

<当事者活動の課題>

当事者活動が広がる一方で、当事者団体・個人はその活動の持続性に困難を感じています。主催者はボランティア的な関わりとなり持続が難しく、モチベーション低下や経済的困窮とともに閉会してしまう状況が起きがちです。ひきこもり支援にかかる財政的支援はひきこもり支援機関や支援者だけでなく、当事者団体にも直接渡るような仕組みづくりが必要です。

当事者団体は当事者へのリーチが、行政は資金確保や場の確保等が強味であり、連携は互いの苦手分野を補完しつつより良い支援の構築が図れます。行政は当事者活動を把握し、連携を進めてください。

<当事者団体が捻出に困るもの>

居場所運営ができる人材の育成費／人件費／会場費／旅費交通費／固定費(事務所等)

資料1:運営側(支援者)の感想

| chapter3 |

運営側の感想

UXラウンジ終了後、運営に携わったメンバーでアンケートを読み込み、参加者の反応を共有しました。また、それぞれの視点で気づいたことや学びを出し合い、振り返りました。

UX会議の場づくりの力が大きい。どうやって安心・安全な空気をつくったかというのかが考え続けていきたい。

体験談を聞いて、昔の事を思い出した。自分の中に消化しきれない部分があったんだと実感した。

絶対この人に参加してほしいと思っていた人が来てくれて、本当に嬉しかった。続けてきたからこその今日につながった。今回だけにならないように今後も活動を続けていきたい。

体験談を話しました。緊張で何を話したか覚えてないけれど、自分の話が誰かにとって、ひとつでも共感できる部分があればいいなと思いました。

ここに来られていない人がいる、ということを知れた。そのことを考え続けていきたい。

大勢が協力して発信したことに意味があったことを実感した。

とても雰囲気良かったので、これを繰り返したくもってよくなっていくんだなと感じた。

「声を聞いてほしい」「支援がほしい」という声をよく聞いた。来年度もぜひ続けていけばこの心境にはならなかったと思う。

行政としても自ら動かないと当事者の人たちに会えないので、このような機会があったのは良かった。

このような行政が関わるイベントがあると、行政へのハードルが少し下がると思う。民間団体とうまく連携することで地域福祉が活かされて当事者が笑顔でいられるのでは。

受付にいたが、参加者が楽しそうに帰っていったことが印象的だった。

地元だと参加しづらいという声。市を越えて支援をしていくことが大事。

受付が怖いという声があった。(背広の職員がいたので)背広姿が堅苦しかったのかなというのは反省点です。

「市の職員の自己紹介のとき『知り合いがいるのではないかな』と一番ドキドキした」という声を聞いて、関わり方の難しさを感じた。

女子会に参加したが、時間があつという間だった。もっと話を聞きたいと思ったし、自分の話もしたい。つながる待合室で、自分の意見を言ってみたいなとも思った。

所感

参加者アンケートの「何でここまでリユラウンジを知りましたか」という項目への回答には、各会場さまざまな媒体、団体名が挙げられました。自治体の広報やプラットフォームメンバーがきっかけとなったという声も多く、本事業の後でもあらゆる「行政・民間・個人」によるプラットフォームが機能したことを実感するイベントとなりました。

振り返りの場では、「今回のイベントで生まれた流れを、今後地域の中でどう継続していくか」という事が度々出ました。イベントの効果を感じる一方、自治体やプラットフォームがどのように連携を続けていくかが課題であることもわかりました。

comment

[その他]

たくさんの方が集まっていて、よかったです。支援者の方や家族の人に理解が広がり、生きやすい世の中になれればいいな。

生きづらさは変わらなかったが、少し頑張ろうと思った。

司会進行がフランクで参加しやすかったです。

ひきこもりからどうやって社会につながっていったかの失敗談、経験をもっと具体的にこまかく聞いてみたい。

高齢のひきこもりについて、もっと知りたい(50代です。私)。若いひきこもりの人よりも、高齢のひとり者になればなるほど、当事者金がつくりづらい気がする。でも、あればいいなと思う。

支援されるのはすごく苦手だったという恩田さんの発言は共感できました。非交流スペースというのはいいアイデアだと思った。

東京は参加できることがいろいろあっていいな、でもコロナ禍だから行けないなと思っていたところに、このイベントを知りました。企画運営ありがとうございます。

UX会議の方が当事者としてトークに入ってくれそうですよ。「支援されます」感がなくてよかったです。

当事者がつとえるこのような場をもっと多くの場所で頻繁に開いてほしい。運営にたずさわっている方々が、当事者であるところがすばらしいです。医者や専門家を呼ぶセミナーよりも、当事者ひとりひとりの話が共感できてよかったです。無料で参加できるのもありがたいです。

ひきこもりだけでなく、生きづらさ全般に対する話を広げていただきたいです。

[イベントに参加してよかったこと]
人と関わられた・話せた

とりあえず会って話をする。とてもよい「とりあえず」だったと思います。孤独さが少し楽になりました。もっといろいろな方と話ができたらいとおもいました。

人と話せてよかった。

初めて参加しましたが、久しぶりに他人と話せたをそれほど気にせず自分の気持ちを言えたりしてよかったです。

当事者会で自分の気持ちを話せてよかった。でもとても疲れた。

皆さんとお話できて楽しかったです。

ひきこもりだけでなく、障がい者、LGBTQの当事者がいて、ダブルマイノリティである自分のことを話せてよかった。共感できる話があって、自分だけでは無いと思えた。時間が足りないと思っていた交流ができた。

自分はまだオチのある話ができず、今日もそれは同じではあったが、話が盛り上がりつつあった。ひきこもりあるあるはテンション上がり

